

JILAF

Japan International Labour
Foundation

設立 10 周年記念版



財団法人 国際労働財団



開発途上国における それを通じた健全な

国際労働財団（JILAF）は、労働分野における国際的な交流と協力を推進するための組織として、以来10年間、連合・構成組織、関係省庁・機関、国際自由労連（ICFTU）・同地域組織など関係者これからも開発途上国における自由で民主的な労働運動の発展への協力と、それを通じた途上国



●財国際労働財団
理事長 清水春樹

途上国の社会進歩のために

国際労働財団（JILAF）が、労働運動の分野における開発協力のための組織として、連合によって世に送り出されてから10年が経ちました。自由で民主的な労働運動の発展こそが、開発途上国 の健全な経済発展と社会進歩のための不可欠の基盤である、という連合発足当時のリーダーたちのグローバルな見識と、それを実践された行動力に深く敬意を表します。

以来10年間、こうした基本理念にたって、70カ国を超える開発途上国の労働組合との間で、さまざまな交流と協力の実績を積み重ねてきた結果、世界の労働運動の中で、JILAFに対する評価と期待が年々高まっていると実感しています。

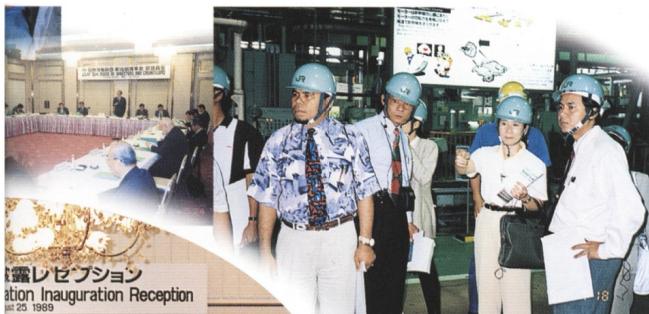
これからも、設立以来の理念と理想を高く掲げながら、現実的な努力を地道に続けていきたいと思いますので、関係者の皆様の一層のご理解とご協力を、心からお願ひいたします。



(財)国際労働財団設立
Japan International Labour Foundation
1989年8月25日 A

民主的な労働運動の発展と 社会・経済開発の推進をめざして

1989年5月、日本労働組合総連合会（連合）によって設立されました。
のご協力をいただきながら着実に事業を拡充してきました。
の健全な社会・経済開発の推進をめざして、積極的な活動を進めて行きます。



●日本労働組合総連合会
会長 鷲尾悦也



JILAFの一層の発展を願う

JILAF設立10周年を心からお祝いいたします。また、設立からこの間、事業の発展のために尽力された歴代役職員の方々のご努力に敬意を表します。

世界がグローバル化する中で、国際協力の分野はその重要性を増しています。さらに、グローバル化が進むほどに、世界の働く人々がそれぞれの置かれた状況について認識を深めることや、知識や経験、情報の交換は、自らの生活や権利の向上を求めるためにますます必要となっています。

JILAFは、教育や社会開発分野での活動、人物招聘などのプログラムを通じ途上国の民主的かつ自主的な労働運動の発展に優れた貢献を行ってまいりました。

JILAFがこの10年間の成果を基に、連合の国際協力機関として一層の発展を遂げることを願ってやみません。

労働分野における開発協力の10年

目的

JILAFは、開発途上国における自由で民主的な労働運動や労使関係の発展に協力し、それによって途上国の健全な社会・経済発展に貢献することを主な目的としています。

JILAFは、連合がつくった開発協力のためのNGO（非政府組織）であり、NPO（非営利団体）です。

事業

人物招聘

途上国の労働組合リーダーを日本に招き、研修の機会を提供します。この10年間の招聘者数は80カ国・地域、1,088人になりました。

現地プロジェクト

途上国の労働組合が、自国において行う教育活動や社会開発活動を支援します。94年度からの5年間に実施した現地セミナーは15カ国を対象に約645回、参加者は約18,470人になりました。

器材供与

特に必要な場合は途上国の労働組合に教育用器材などを提供します。

人材育成

途上国の若い労働組合リーダーが他国で研修を受けるための奨学金などを援助します。

セミナー・シンポジウム

関係組織と協力し、国内や海外で労働関係のセミナーやシンポジウムを開催します。

調査・研究・広報

海外の労働事情の調査・研究や出版活動を行っています。



国際社会に貢献するため設立

●財国際労働財団

前理事長 宇佐美忠信

1987年、560万人の連合が発足し、ICFTUに加盟した。国際協力活動を積極的に果たすためにJILAFを1989年に設立した。その目指すものは、第1は、日本のODAが増加する中で、被援助国の庶民の生活向上、貧富の格差拡大や政治の腐敗を防ぐこと、そのためには自由な労働組合の発展が不可欠である。開発途上国労働組合の幹部を日本に招聘し、労働運動に対する動機づけを進める機会をつくる。日本の労働運動を押し付けるのではなく、「百聞は一見にしかず」、日本の実態を見るなかで、良い点を参考にしてもらう。第2は各国労働組合幹部の相互理解を深める機会をつくり、草の根交流を進めるなかで、平和に寄与することである。

10年間着実に成果をあげていることを喜んでいる。

JILAFの交流・協力の対象は80カ国・地域となりました



人物招聘事業

日本の労働運動の ありのままの姿を見てもらいます

人物招聘事業は、JILAF設立以来の中心的なプロジェクトです。これは、アジア、アフリカ、中南米などの開発途上国の労働組合リーダーを日本に招いて、日本の労働運動、労使関係などについて研修する機会を提供するものです。

滞在は、約2週間で、労働分野の研修のほか、日本の文化や日本人の生活にもふれてもらえるよう計画されています。

プログラムの主な内容は、労働講義をはじめ、連合本部や関係組織の訪問などであり、参加者自身の目と耳で、日本のありのままの姿を理解してもらうよう心がけています。

この事業で、JILAF設立以来の10年間に招聘した実績は、80カ国・地域、1,088名に達しています。

■主なプログラム

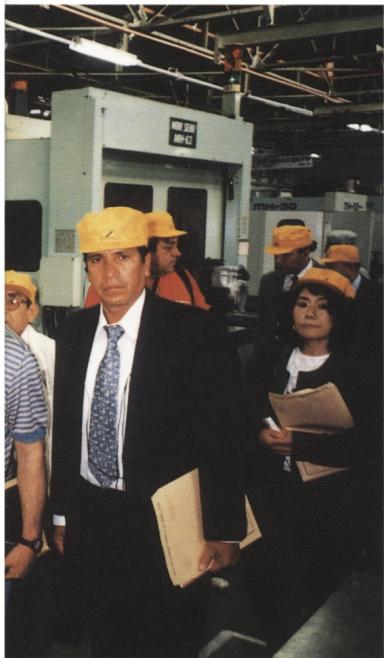
区分	訪問先・カリキュラム
労働講義	「労働運動の歴史」 「日本の労使関係」 「日本の労働法制、社会保障制度」
関係組織等訪問	連合本部 社会経済生産性本部 労働省 工場・事業所 連合構成組織等
地方交流	地方連合会 地方自治体（知事・市長等訪問） 工場・事業所 組合員宅
地方視察	広島平和資料館・原爆ドーム
相互交流	労働事情を聴く会



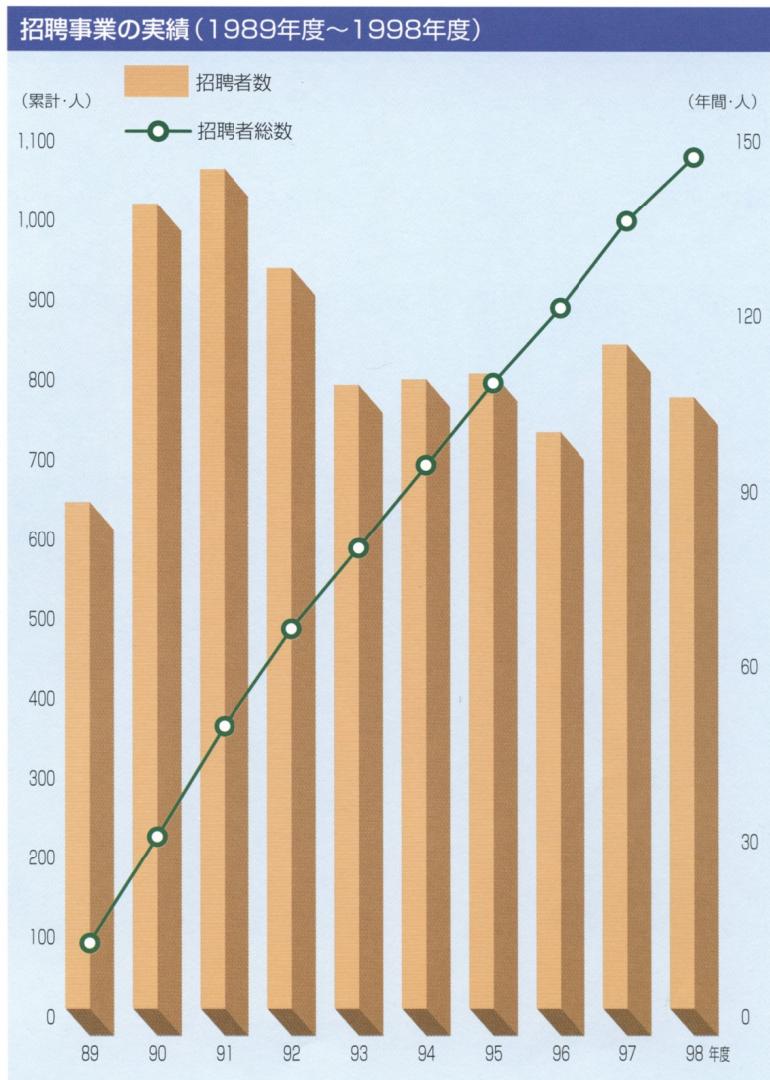
工場を訪問。生産システムや安全衛生体制を見学し、組合役員と意見交換する



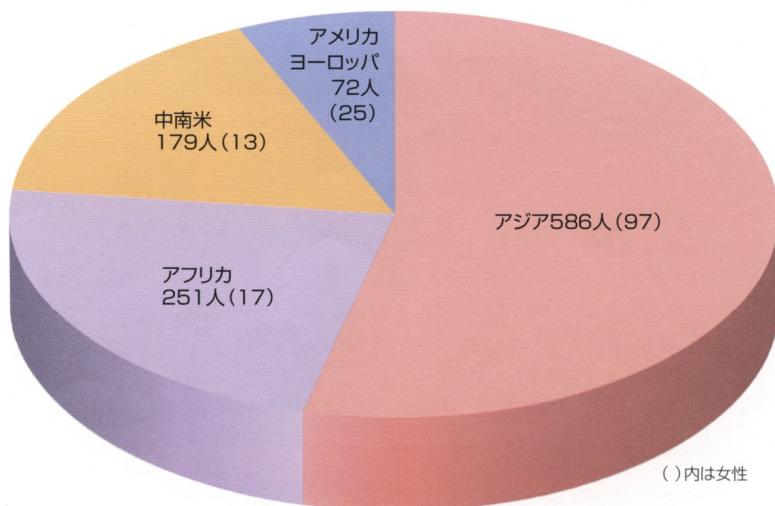
連合本部で連合の組織・活動について聞く。鷲尾会長と握手



清水理事長が「日本の労使関係」について説明し、質疑応答



■80カ国・1,088名を招聘(1989年度～1998年度)





広島で平和記念資料館、原爆ドームを見学。平和への願いを新たに



社会経済生産性本部で、生産性運動の理念や活動について研修



連合石川を訪問。地方連合会の役割・活動について意見交換



日本の労働関係者が招聘者から学ぶ「労働事情を聞く会」を開催



情報交換、経験交流のさらなる発展を

●国際自由労連アフリカ地域組織 (ICFTU-AFRO)

書記長 アンドルー・カイレンボ

JILAF設立10周年は、今までの重要な発展の足跡を振り返るよい機会です。JILAFはこれまで、技術援助、情報交換と経験交流を通じて、国際的な相互理解と協力関係づくりを推進してきましたが、これはまさに時代の要請に応えたものであるといえます。短い歴史ではありますが、その間に果たした実績にJILAFは誇りを持ってよいと思います。

また、設立10周年は、未来を考える機会でもあります。JILAFはすでに確固たる基盤を固めており、確信を持って将来を展望することができます。過去10年間、私たちの連携関係はますます強くなっていますので、今後も、組合活動に関する情報交換や、日本とアフリカの労働組合リーダーの経験交流など、お互いの協力関係を強化していくものと期待しています。

アフリカの労働運動を代表し、AFROはJILAF設立10周年を心からお祝いし、今後の一層のご発展をお祈りします。

人物招聘事業



連合・中央女性集会に参加。自国の女性活動について報告



組合役員の家庭を訪問。日本の生活にふれる



埼玉県大宮市の保育園。保育制度への関心は高い



尊厳のある生活のために連携を強めよう

●国際自由労連米州地域組織 (ICFTU-ORIT)

書記長 ルイス・アンダーソン

JILAF10周年おめでとうございます。世界の労働運動の強化のために、着実に事業を拡充され、成果をあげてこられたことに、心からお祝い申し上げます。ORITは、今後もJILAFとの連携を強め、教育活動等における協力関係を発展させ、それを通じてお互いに学び合い、また、継続的な情報交換によって、お互いに助力し合うことを願っております。

労働運動は、21世紀を迎えようとしている現在、多くの課題に直面しております。ORITは、こうした試練に立ち向かうべく「グローバル・プラン」に取り組んでおりますが、それを実行して行くうえでJILAFとの協力が必要であり、非常に重要です。このプランは、「命のための教育」、ジェンダー、児童労働の廃絶、社会条項制定などを求める運動を含むものであり、こうした一連の活動を通じて、この地域の数百万の労働者に、より尊厳のある生活への希望を与えようとするものです。

人物招聘事業

招聘者の主な感想・意見



よく計画・準備された、教育的価値の高い、大変有益なプログラムだ。暖かい受入れに感謝する。ただ、プログラムがタイトすぎる。もっとゆとりを持たせて、質疑応答・意見交換などの時間を増やした方がよい。



日本人の規律正しさ、時間厳守、相互信頼、勤勉さが印象に残った。それが日本の経済発展のカギであることがわかった。



労働事情を聞く会で、自分たちの国の労働情勢や労働運動の現状について、日本の人たちに聴いてもらえて大変よかった。日本の労働関係者に、もっと途上国の深刻な実態について関心を持ってもらいたい。

日本での経験を



白立文 アディア・ゴルチスレン ザフール・アワン アミール・ペレツ シャヘル・サイード ジルヴァル・ジハンギロヴァ アビシャ・ニヤグオ
中国・ACFTU モンゴル・CMTU パキスタン・APFOL イスラエル・HISTADRUT バレスチナ・PGFTU ウズベキスタン・TUFU SATUCC
国際連絡部副部長 会長 書記長 議長 書記長 委員長 コーディネーター(現在)
【97年9月招聘】 【92年12月招聘】 【90年7月招聘】 【94年10月招聘】 【96年2月招聘】 【98年2月招聘】 ジンバブエ・ZCTU郵便通信労組委員長(当時)
【91年10月招聘】

日本の経済発展と生活水準の向上に、労使関係が大きな役割を果たしてきたことがわかった。「生産性三原則」は、世界のどこでも適用すべき普遍的な理念である。



広島を訪問して、原爆がいかに悲惨なものかを実感できた。労働組合としても国際的な連帯を強化して、一日も早く核兵器を廃絶するよう努力すべきだ。

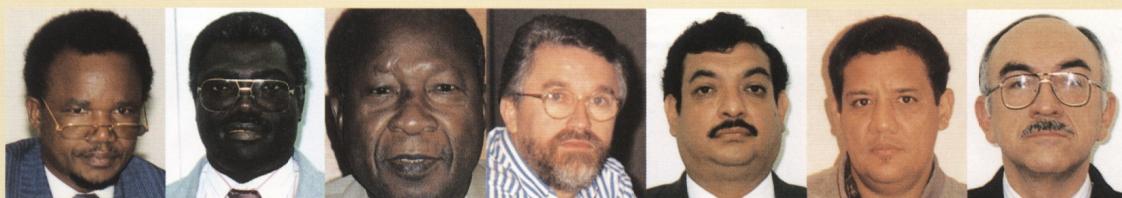


日本も今、厳しい不況に陥っており、倒産やリストラなど様ざまな労働問題が起きていることがわかった。その中で、政労使とも雇用の確保に重点をおいて努力していることが印象に残った。



日本の労働運動や労使関係を、自分の国にそのまま適用することはできないが、日本から新しい刺激や材料をいっぱい持ち帰ることができる。

活かしています



フレデリック・チルバ アレックス・ブレイ マディア・ディオブ アントニオ・フェリシオ フアン・カジエハ ミゲル・サンチェス ベートーベン・ヘレーラ
ザンビア大統領(現在) ガーナ・GTUC セネガル・CNTS ブラジル・CUT書記長 メキシコ下院議員 ベネズエラ下院議員 国際自由労連米州組織
ザンビア・ZCTU 議長 会長 (現在) (現在) 員・CTV(現在) 経済アドバイザー
委員長(当時) 【95年9月招聘】 【90年10月招聘】 ブラジル・CUT メキシコ・CTM ベネズエラ・CTVバリ 【98年9月招聘】
【90年3月招聘】 執行委員(当時) 法律局長(当時) ナス州委員長(当時)
【93年6月招聘】 【97年6月招聘】 【91年1月招聘】

現地プロジェクト

15カ国・1地域、19組織を対象に 現地支援活動を進めています

JILAFは、開発途上国の労働組合が現地で行う教育活動や社会開発活動に対する支援活動を行っており、これを現地プロジェクトと呼んでいます。

現地プロジェクトは、1994年度から開始し、その後、徐々に対象国を広げ、現在、アジアを中心に15カ国・1地域、19組織を対象にさまざまな現地支援事業を行っています。

この内、現地セミナーだけを数えても、今までの5年間に14カ国で約645回開催され、これに約18,470人の現地労働組合リーダー等が参加しています。

途上国労働組合の主体性を基本にして

JILAFの現地プロジェクトは、現地労働組合の実態、ニーズ、主体性を尊重して支援を行うことを基本にしており、現地の労働組合が主体性をもって企画・運営する労働者教育活動、社会開発活動に対して、講師の派遣、ノウハウの提供、資金援助等を行っています。



女性の参加と権利拡大のために「女性の地位向上セミナー」(パキスタン)

■現地プロジェクトの主な内容と実施組織

労働者教育活動			
組織化セミナー	ザンビア ボツワナ ナミビア ジンバブエ フィリピン	(ZCTU) (BFTU) (NUNW) (ZCTU) (TUCP)	共催
労使関係・団体交渉・生産性セミナー	パキスタン モンゴル バングラディッシュ タイ マレーシア ネパール フィリピン インドネシア	(APFOL, APFTU, PNFTU) (CMTU) (ICFTU-BC) (LCT) (MTUC) (NTUC) (TUCP) (織維労組、金属労組)	
組合運営セミナー	パキスタン インドネシア	(APFOL) (銀行労組、織維労組、食品労組)	
市場経済下の労働組合セミナー	中国 モンゴル	(ACFTU) (CMTU)	
労働安全 (POSITIVE) セミナー	パキスタン モンゴル フィリピン バングラディッシュ	(APFOL, APFTU, PNFTU) (CMTU) (TUCP) (ICFTU-BC)	
女性セミナー	パキスタン フィリピン	(APFTU, PNFTU) (TUCP)	
労働関係法律問題セミナー	イスラエル パレスチナ	(HISTADRUT) (PGFTU)	共催
社会開発活動			
児童労働者のための学校プロジェクト	ネパール インド	(NTUC) (INTUC)	
診療所プロジェクト	パキスタン	(PNFTU)	
家族計画セミナー	パキスタン	(APFOL)	
母子衛生・栄養に関する講習会	パキスタン	(PNFTU)	
環境問題セミナー	パキスタン フィリピン	(APFTU) (TUCP)	

98年度から南部アフリカで現地セミナーを開始。テーマは「組織化」(ボツワナ、ナミビア、ザンビア、ジンバブエ)

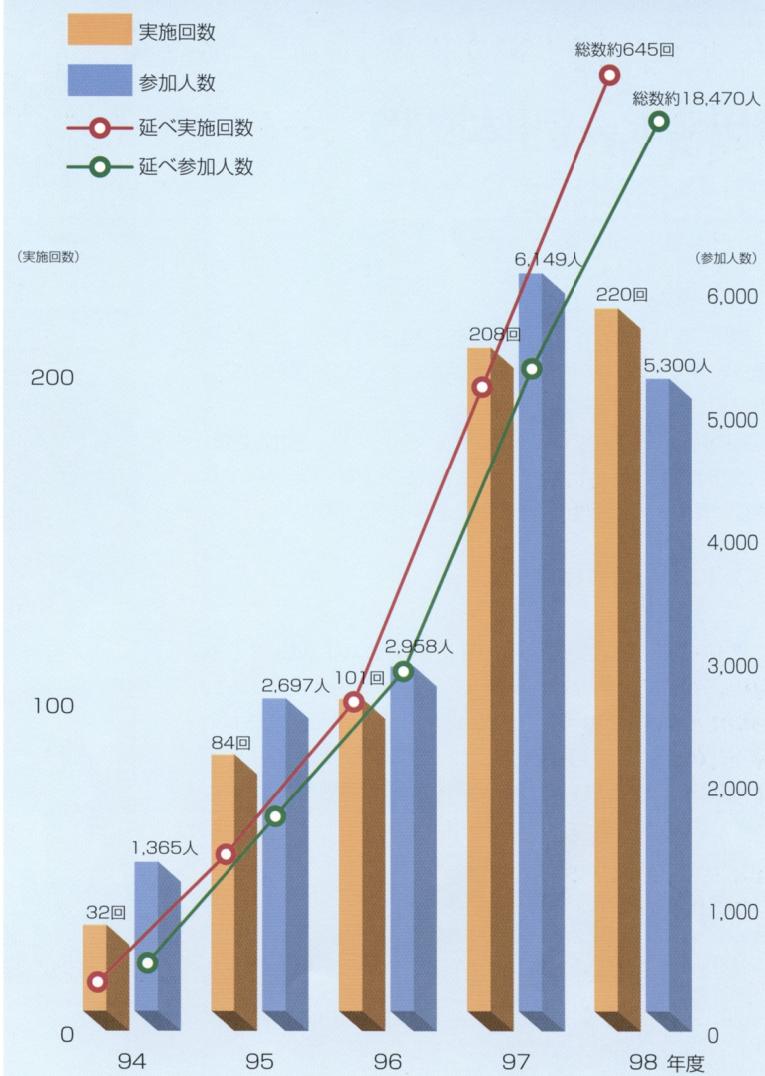
「労使関係セミナー」で団体交渉などのノウハウを研修(マレーシア・MTUC)

組織の自立と活性化が課題「リーダー養成セミナー」(インドネシア・金属労組)

現地セミナーの実績(1994年度～1998年度)



(c)APFTU)



■現地セミナー実施回数・参加人数



年度	対象国・組織数	セミナー実施数	セミナー参加者数
1994年	5カ国・8組織	32回	1,365人
1995年	6カ国・9組織	84回	2,697人
1996年	7カ国・10組織	101回	2,958人
1997年	9カ国・1地域・13組織	208回	6,149人
1998年	14カ国・1地域・18組織	約220回	約5,300人
過去5年間の合計		約645回	約18,470人

現地プロジェクト

労 働 者 教 育 活 動

組織化、団体交渉 安全衛生など

現地プロジェクトは、途上国労働組合の要望にそって実施されますが、主に労働者教育活動と社会開発活動の二つの分野に分けられます。

労働者教育活動では、組織化、労使関係、団体交渉、女性の地位向上、安全衛生、生産性向上などのテーマを取り上げて、リーダーの養成などを進めています。

POSITIVEが好評です

この中でも、労働安全衛生のためのプログラム「**POSITIVE (Participation-Oriented Safety Improvements by Trade union Initiative)**」は、JILAFが労働科学研究所の協力を得て開発した労働組合版の「参加型安全衛生セミナー」であり、高い評価を得ながら、多くの国・組織に普及してきています。

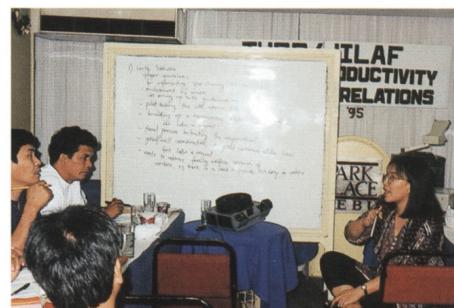
「POSITIVE」は、職場に帰ってから、すぐに役立つよう、参加者自身が主体となって、職場を点検し、グループで討論し、解決のための知恵を出し合うセミナーです。



「市場経済下の労働運動・労使関係セミナー」(中国・ACFTU)



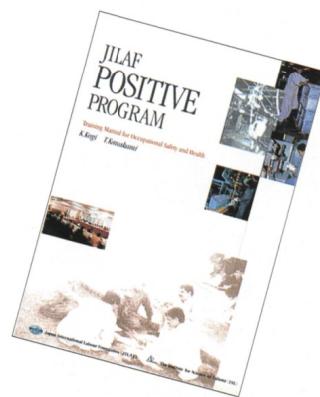
パレスチナ人労働者ための「法律問題セミナー」(イスラエル・HISTADRUT、パレスチナ・PGFTU)



生産性運動を学ぶ「生産性と労使関係セミナー」(フィリピン・TUCP)



POSITIVE方式の「労働安全衛生セミナー」(バングラデシュ・ICFTU-BC)



POSITIVEセミナーのためのテキスト

社会開発活動

児童労働対策 診療所、家族計画など



地域社会のために「診療所」を開設・運営(パキスタン・PNFTU)



環境破壊と労働組合の対応を考える「環境セミナー」(パキスタン・APFTU)



「家族計画」は労働組合にとっても重要なテーマ(パキスタン・APFOL)

現地プロジェクトのもう一つの分野は、途上国の労働組合が現地で行う社会開発活動に対する支援です。

社会開発活動も、現地の実状、ニーズに応じて実施しており、その内容としては、児童労働者のための学校の開設・運営をはじめ、診療所の開設・運営、家族計画セミナー、環境・衛生セミナーなどがあります。

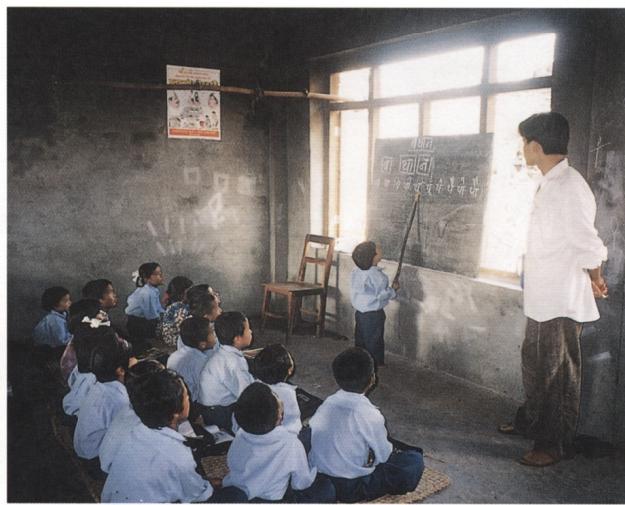
ネパール、インドで児童のための学校

児童労働者のための学校は、96年度にネパールで始められ、現在、ネパールでは、現地労働組合(NTUC)と協力して12校を運営しており、また、98年度からは、インド(タミルナドゥ州)で現地労働組合(INTUC)と協力して1校が運営されています。

これらの学校では、家計を助けるなどのために教育の機会を奪われている6歳から12歳前後の少年少女に、基礎的な教育を受ける機会を提供しています。



99年1月に開校した「児童労働者のための学習センター」(インド・INTUC)



「児童労働者のための学校プロジェクト」ネパール全国で12校を運営(ネパール・NTUC)

現地プロジェクト

現地セミナー 参加者の主な感想



児童労働者のための学校プロジェクト

子どもたちがこの学校に通うようになって、文字の読み書きができるようになったし、衛生・保健についても気をつけるようになった。両親も大変喜んでいるので、できればもっと学校の数を増やしてほしい。さらに今後は、卒業後の職の斡旋等にも取り組んでほしい。



労働安全(POSITIVE)セミナー

POSITIVEセミナーで、お金をかけずに具体的な職場改善を進めるためのアイデアや方法を学ぶことができた。このセミナーは、わが国の実情にあった実践的な活動であり、労働組合の活性化や労使関係の改善にも役立つ。



家族計画セミナー

避妊は自然の摂理に反する面もあり、宗教上の抵抗感もある。しかし、母体の健康を守る方が大事だと思うし、人口の爆発的増加が貧困を一層深刻にさせているという大問題があるので、労働組合としても、もっと家族計画教育に取り組む必要がある。



新しい分野へさらなる飛躍を

●国際自由労連アジア・太平洋地域組織 (ICFTU-APRO)

書記長 和泉 孝

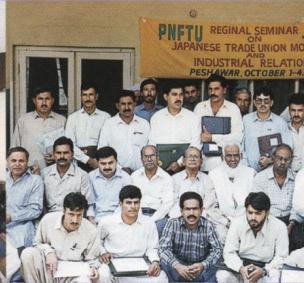
国際労働財団(JILAF)の設立10周年をお祝い申し上げます。

招聘事業や現地支援活動など高い評価を得ているJILAF独自の活動はもとより、ICFTU-APROの活動に対しても全面的な御協力をいただいております。特に、年1回4週間の若手リーダー研修や、女性活動の分野での1+1=Women Power および World Women's Day (3月8日) キャンペーンへの支援などは、国際労働運動の先頭を走るものであります。

21世紀へ向け、アジアでのソーシャル・セーフティー・ネットの拡充や国際通貨・金融問題など、新しい分野への活動の拡大を期待いたしますとともに、貴財団のさらなる飛躍をお祈り申し上げます。

生産性と労使関係セミナー

日本の労使関係は対立と協力の両面を持っており、生産性向上のために労使が協力し、その成果の公正な分配のために労働組合が努力していることが分かった。わが国でもこうした状況をつくりたいが、実態は労働者を犠牲にして利益を上げようとする経営者がほとんどで、対立関係ばかりである。しかし、労使の中に生産性向上についての正しい理解を広めて行って、いずれは日本のような労使関係と豊かな暮らしを実現したい。



市場経済下の労働組合セミナー

中国は今、社会主義市場経済への移行過程にあり、その中で労働運動や労使関係の改革も進めているので、この面での日本の経験は大いに参考になる。両国の違いは明確にしながらも、日本の労働法制や労使関係の歴史と現状、さらには国営企業の民営化への労働組合の対応などを学ぶことは有益である。また、OHPを使っての講義、グループ討議の採用などセミナーの進め方も参考になった。



法律問題セミナー

JILAFとイスラエル、パレスチナの3組織が協力して実施しているこのプロジェクトは、まだ規模は小さいが、今きびしく対立しているイスラエル、パレスチナの人々が、人種や宗教の違いを超えて、お互いに同じ人間であることを認識するチャンスを与えてくれている。セミナーの中身も時宜に適したものだが、それ以上に、両国の関係を草の根レベルの人々の参加による和平プロセスに前進させて行くという重要な意義を持っている。このプロジェクトは5年後には必ず大きな実を結ぶと確信している。



器材供与

教育活動などのための 器材を提供しています

開発途上国の労働組合には、教育用器材や組合運営のための事務機器がなくて困っているところが多くあります。JILAFはこれらの労働組合からの要望を受けて、特に必要と思われるところにしぼって、パソコン、コピー機、OHP機器などの器材を供与しています。

■器材供与の実績

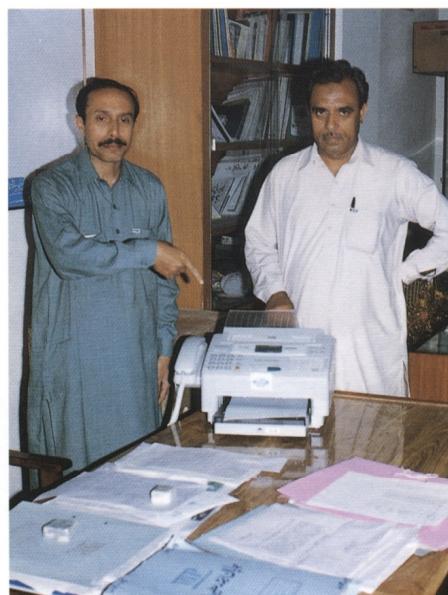
年度	器材供与国・組織数	主な供与器材
89年	13カ国・1地域、20組織	
90年	11カ国・1地域、12組織	パソコン
91年	12カ国、15組織	コピー機・印刷機
92年	11カ国・1地域、13組織	ワープロ
93年	7カ国・1地域、10組織	ファックス
94年	4カ国、6組織	OHP機器
95年	12カ国・1地域、13組織	音響機器
96年	11カ国・2地域、13組織	展示用パネルなど
97年	7カ国・1地域9組織	
98年	4カ国・1地域5組織	



コピー機はとても便利です。(ナミibia・NUNW)



ICFTU-AFRO(ケニア)にパソコンを供与



パキスタン・APFTUにファックスを供与



OHPを供与(ドミニカ共和国・CNTD)

人材育成(国外・国内)

労働運動の若手リーダーの育成に協力しています

JILAFは開発途上国の労働組合の若手リーダーの育成に協力しています。

その一つとして、国際自由労連アジア・太平洋地域組織(ICFTU-APRO)が毎年行っているシンガポール労働大学「上級労組指導者コース」に対して講師を派遣するとともに、南アジアからの参加者に対して奨学金を提供しています。

同じように、イスラエル労働総同盟(HISTADRUT)の国際学院「国際コース」にも講師の派遣と、アフリカからの参加者へ奨学金の提供を毎年行っています。

また、途上国のリーダーが日本の関係組織(連合、連合構成組織、JILAFなど)の招きで日本で研修する場合に、費用の一部負担を含めて協力しています。

日本の国際活動家の養成も

さらに、JILAFは、96年度から、国際労働運動を担える日本の労働組合の人材育成をめざして「国際活動家養成コース」を開設しました。このコースでは、英語研修、労働講義のほか、招聘事業、現地プロジェクトの実地研修なども含めた1年間のプログラムを通じて、国際労働運動に必要な基礎的な知識と経験を身につけてもらいます。



現場で学ぶ貴重な経験

韓国労働組合総連盟(FKTU)

政策本部長 **盧 進貴**

私は、97年6月末から約1ヵ月間日本に滞在し、日本の労働組合の活動について研修しました。特に、労働組合が、職場、企業、産業などの各段階で、どのような役割を果たしているのかについて研究しました。JILAFをはじめ連合関係者のご協力で、多くの組合リーダーたちと直接意見交換することができ、現場でなければ得られないさまざまな知識と資料を得ることができました。この様な貴重な機会を与えてくれたJILAFに感謝しています。



シンガポール労働大学「上級労組指導者コース」



シンガポール労働大学にJILAF「国際活動家養成コース」参加者を派遣



イスラエル・HISTADRUTの国際学院「国際コース」



JILAFの支援で日本で研修した盧氏(FKTU)の研修報告書

セミナー・シンポジウムの開催

シンポジウムなどを通じて研修や活動推進の支援をしています

JILAFは、国際自由労連アジア・太平洋地域組織（ICFTU-APRO）やILO、連合など関係の深い組織と協力して、セミナー、シンポジウム、ワークショップを開催しています。

特に最近は、アジアの青年・女性活動の助成に力を入れており、ICFTU-APROとの共催で、青年・女性のリーダーを対象としたセミナー、ワークショップを毎年いくつかの国で開催しています。また、97年度からはILOおよび連合と協力し、アフリカで「生産性向上と労働組合の役割」をテーマにしたワークショップを開催し、講師を派遣しています。

国内で「労働事情を聴く会」など開催

国内においても、連合と協力して、また、JILAF独自で国際シンポジウムや講演会を開催したり、海外労働組合リーダーを日本に招聘するたびごとに、「労働事情を聴く会」を開催しています。JILAFは、これらの講演会やシンポジウムを通じて、国内の労働関係者に、重要な国際労働問題や海外の労働事情について学ぶ機会を提供しています。

■最近開催した主なシンポジウム・セミナー・ワークショップ

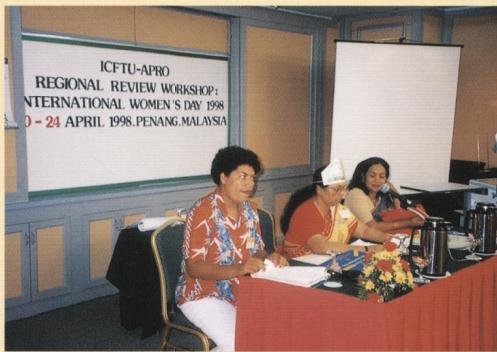
	テーマ	時 期	場 所	共催組織
海外	・東アジア地域ワークショップ 「男女均等概念を通しての21世紀にむけての労働組合の構築」	97年7月	韓国	ICFTU-APRO
	・アフリカ労組指導者ワークショップ「生産性向上と労働者の利益、労働組合の対応」	97年7月	ジンバブエ	ILO、連合
	・青年コーディネーター・ワークショップ	97年10月	シンガポール	ICFTU-APRO
	・ワークショップ「国際女性デーキャンペーンの評価と今後の企画」	98年4月	マレーシア	ICFTU-APRO
	・東・東南アジア地域ワークショップ「アジア経済・金融危機と女性・若年労働者」	98年7月	シンガポール	ICFTU-APRO
	・アフリカ労組指導者ワークショップ「生産性向上と労働者の利益、労働組合の対応」	99年2月	セネガル	ILO、連合
	・青年コーディネーター・ワークショップ	99年3月	シンガポール	ICFTU-APRO
国内	・国際シンポジウム「NPO時代の幕開け－米国の経験に学ぶ－」	97年2月	東京	
	・国際女性シンポジウム「アジア・太平洋地域の労働問題と女性労働者の取り組み」	98年9月	東京	連合、 ICFTU-APRO
	・JILAF設立10周年シンポジウム 「経済危機下の労働組合と開発協力」	99年4月	東京	
	・労働事情を聴く会	隨時	東京ほか	



アフリカ生産性ワークショップ(98年・ジンバブエ)



日米NPOシンポジウム「NPO時代の幕開け」(96年・東京)



ワークショップ「国際女性デーキャンペーンの評価と今後の企画」(98年・マレーシア)



国際シンポジウム「地域経済化の進展と労働問題」(93年・東京)



東アジア地域ワークショップ「男女均等概念を通しての21世紀にむけての労働組合の構築」(97年・韓国)



国際セミナー「スウェーデン労働組合の挑戦」(93年・東京)



ワークショップ「労働組合権と人権」(93年・タイ)



国際シンポジウム「労組から見た東欧の変革」(92年・東京)

国際交流チーム派遣

日本から交流と研修のための チームを派遣しています

JILAFは連合と協力して、毎年、日本の労働組合リーダーからなる国際交流チームをアジア地域に派遣しています。これは、日本のリーダーに海外の労働事情を知ってもらい、相互理解を深めるためのもので、訪問先国では、ナショナルセンター、工場・事業所、教育施設、組合員の家庭、NGO組織などを訪ねて、研修や意見交換を行っています。

特に、96年度からは女性リーダーで構成するチームを派遣し、地方連合会の女性リーダーなどに海外の労働組合との交流の機会を提供しています。

■交流チーム派遣の実績

年度	訪問先国
92年 2チーム	①シンガポール、タイ(22名) ②韓国(18名)
93年 2チーム	①イスラエル、トルコ(8名) ②インド、スリランカ(9名)
94年	モンゴル(9名)
96年	韓国(女性チーム・16名)
97年	マレーシア、シンガポール (女性チーム・13名)
98年	シンガポール、タイ (女性チーム・12名)



マレーシアの油やしのプランテーションを訪問(97年度女性チーム)



韓国・FKTUで女性リーダーと女性委員会活動について意見交換(96年女性チーム)



タイ北部のメイサイにあるNGO「娘たちと地域のための教育開発プログラム」を訪問(98年度女性チーム)



タイ・LCTでナショナルセンターの組織・活動について聞く(98年女性チーム)

調査、研究、広報

海外の労働事情を調査し 日本に紹介しています

JILAFは海外労働組合との幅広いネットワークを活用して、海外の労働事情、労働運動や開発協力活動に関する調査・研究を行っています。そして、これらの調査・研究の成果を、報告書としてまとめ、日本の労働関係者に紹介しています。

JILAFは、「ニュースレター」とインターネット・ホームページを通じて活動を紹介しています。「ニュースレター」は年4回発行され、日本語版、英語版の他にフランス語、スペイン語、韓国語に訳され、国内外の関係者に送られています。

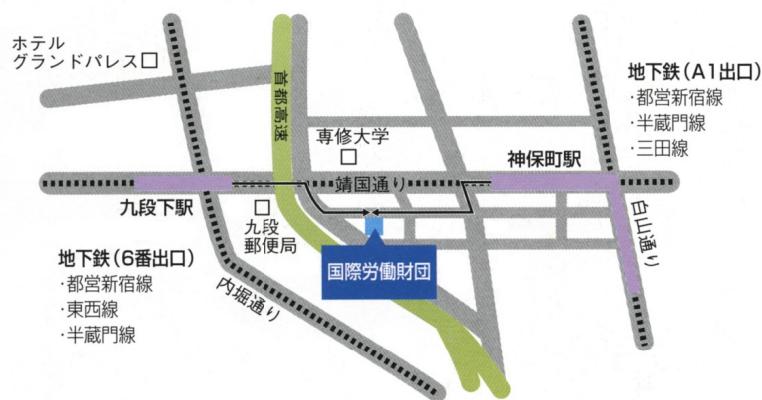


■最近のJILAFの主な調査・研究活動

調査・研究活動	テーマ
海外雇用対策調査	①「各国に共通する輸出産業における最近の雇用問題の対策と方向」(1998年) ②「雇用政策の展開と労使の役割」(1998年)
国際労働問題研究会	①「児童労働」(1997年) ②「アジアにおける雇用と社会経済問題」(1998年)
海外労働組合開発協力実態調査	「欧米の労働組合の開発協力活動」(1998年)
海外労働事情調査	① アフリカ労働事情調査(毎年) ② 中南米労働事情調査(毎年)
国際労働情報の整理・分析・まとめ	労働組合国際組織、世界各国のナショナルセンターの基礎情報調査(毎年)



Japan International Labour Foundation



(財)国際労働財団

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-23-2 錦明ビル5F

TEL : 03-3288-4188 FAX:03-3288-4155

URL : <http://www.jilaf.or.jp> E-mail : jilaf@ubcnet.or.jp

1999年4月

